

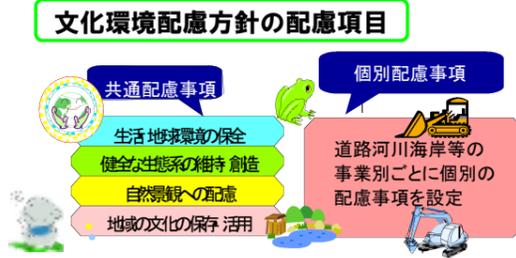
平成25年度 文化環境評価システムの取組結果について

1 文化環境評価システムとは

県が公共事業等のハード事業を行う際に、「文化環境配慮方針(共通・個別配慮事項)」に基づき、環境負荷の軽減と地域文化の保存・活用を継続的に行う全庁的なシステムとして平成11年4月1日から実施しています。
 事業費が一定規模以上の対象工事について、工事発注前に検討会を行い、より効果のある環境配慮を検討し、工事後は実施できた環境配慮について情報発信・情報共有に努めていく取組を行っています。



環境配慮検討会(工事発注前)の状況



年度	過去5年間の対象工事数
H21	20工事
H22	21工事
H23	11工事
H24	11工事
H25	10工事

2 平成25年度完了工事一覧 (前年度以前からの繰越工事含む) 3 環境配慮勉強会の開催

事業	検討年度	工事名
道路	H22	■国道441号地域活力基盤創造交付金橋橋上部工工事
	H23	□国道439号活力創出基盤整備総合交付金大植1号トンネル工事
	H23	□国道439号活力創出基盤整備総合交付金東石原トンネル工事
	H24	□国道494号社会資本整備総合交付金王子トンネル工事
	H24	■県道足摺岬公園線社会資本整備総合交付金松尾トンネル(松尾工区)工事
河川	H24	□弘見川河川改修工事
	H25	■松田川河川改修工事
砂防	H24	□福良川通常砂防工事
	H25	□中鴨川通常砂防工事
海岸	H25	□高知港海岸高潮工事
漁港	H25	■室戸岬漁港施設機能強化工事
林道	H24	■林道畑山仲木屋線1工区工事
	H25	□林道上名・用居線2工区工事
治山	H25	□大蔵谷林地荒廃防止工事
用排水	H24	□烏川地区農業用河川工作物応急対策取水施設下部工事
ほ場	H24	□四万十窪川地区中山間地域総合整備宮内地区(宮内団地)整備工事

■は、施工事例として次に紹介しています。

県の出先機関の公共事業担当者を対象に、環境諸法令の知識や、景観、生態系への配慮手法等の習得のため、年に一回の勉強会を開催しています。

【H25年度実績】

- ・平成25年11月1日14:00～16:30牧野植物園本館映像ホール
- ・テーマ:伊尾木川の多自然型川づくり事例紹介、文化的景観の公共事業指針、生物多様性地域戦略における公共事業等。



【環境配慮勉強会の状況(牧野植物園本館映像ホール)】

4 具体的な施工事例について(抜粋)

道路事業

■国道441号地域活力基盤創造交付金橋橋上部工工事

【工事概要】 橋梁上部工 275m 工期:H23.3～H26.2

当工事の橋橋と網代トンネルを含む網代バイパスは、平成8年度から平成14年度にかけても計4回の景観検討委員会を開催して、道路計画段階から、四万十川の景観に特に影響を与える橋橋についての詳細な検討を行い、橋梁形式や色彩等を決定した。

橋梁の位置は四万十川の中流域で、四万十川らしい自然が色濃く残った質の高い景観を守るべく、“四万十川の風景の添景となる橋”を基本テーマとして、①四万十川の自然景観と調和する橋(自然景観を主役とし、風景の調和性・透過性に配慮した橋梁)、②自然環境への影響に配慮した橋(自然環境の保存に配慮し、環境への影響を最小限に抑える橋梁)、③河川空間からの見上げ景観に配慮した橋(河川内から見上げた時、さりげない個性・表情を持つ橋梁)、をサブテーマとして、四万十川の景観と調和する橋梁としての整備方針が策定された。

この整備方針により、架設方法や仮設道路等による自然環境への影響を極力抑えることも重要であり、施工方法や施工時期に制約がある中で最大限に配慮しながらの工事である。

【主な環境配慮】

- ・架設に当たっては河原を極力乱さず、施工時期を限定しトラックレーンベント架設工法と、河川流水部に影響を与えない送出し架設工法を併用した。
- ・架設位置の周辺環境色(風景を構成する色彩)を分析し、採用色を決定した。

【橋梁本体が裏葉柳色、高欄等付属物が海松色(みるいろ)】



道路事業

■県道足摺岬公園線社会資本整備総合交付金松尾トンネル工事 (松尾工区)
【工事概要】トンネル工 569m 工期:H24.7~H26.2

県道足摺岬公園線「松尾～大浜バイパス」は、計画区間の多くが足摺宇和海国立公園区域内に位置していることから、道路設計の段階から環境省土佐清水自然保護事務所の職員と協議を重ね、自然環境の保全や復元を目的とした道路計画を策定している。

今回工事については、トンネル工事であるため、「坑口部切土面の潜在自然植生による緑化」、「騒音・水質汚濁等の防止対策の徹底」、「多様な生態系の維持・創造」、「ビオトープの創出」を図る。

【主な環境配慮】

- ・計画区域全般の植生調査により植生自然度を評価し、道路計画に反映(トンネル坑口にポット苗を施工)
- ・トンネル残土処理場の植生調査や谷部の水生生物調査を行い、代替措置を検討(ビオトープは整備中)
- ・騒音・振動等の防止対策の徹底



河川事業

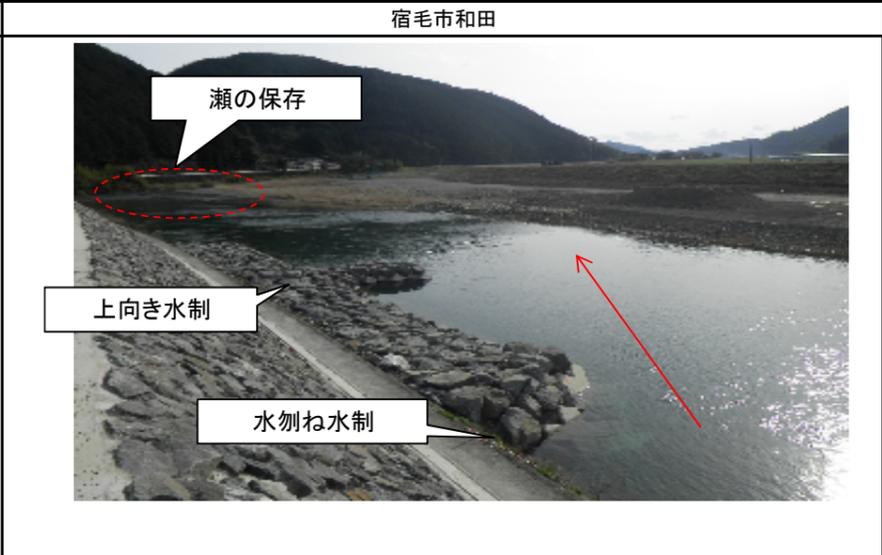
■松田川広域河川改修工事
【工事概要】護岸工65.1m、水制工1式他 工期:H25.10~H26.3

松田川の当該工区では、護岸整備等の人工構造物により、滞筋が護岸沿いに貼りつき、治水・環境面ともに好ましくない状況であった。このため、治水面では、護岸基礎部の安定化対策として、環境面では、本事業区域直下流のアユの産卵場となっている瀬の保存等を図った。

アユの産卵場になっている瀬を保全するため、護岸の前面に水刼水制、上向き水制を設置することで、護岸沿いに流下する流れを河川中央部へと導流する。これにより、出水時に下流部にあたる砂州への土砂供給と、瀬の保全を行うものである。

【主な環境配慮】

- ・護岸基礎部の安定化を図るとともに、アユの産卵場になっている瀬を保全するため、水制工等による整備を実施。
- ・事業効果の検証のため、施工前と施工後に河川環境調査を実施。



漁港事業

■室戸岬漁港施設機能強化工事
【工事概要】消波ブロック製作247個、据付313個 工期:H25.7~H26.3

沖防波堤設置個所の海域に生息する、稚魚、稚貝の生息空間の保全を目的とし、代替生息空間をどのように創出するか検討を行い実施した事業である。

当工事で設置する防波堤は消波(透過)構造であることから、乱積みしたブロックの隙間には稚魚の生息環境が確認できた。

また、消波ブロック製作にあたり、建設機械等による製作ヤード内の粉じん対策として、散水・清掃等を徹底し、周辺環境等への影響を最小限に努めた。

【主な環境配慮】

- ・消波ブロックの乱積み施工により、稚魚・稚貝の生息空間また、海藻の生息域の創出を図った。
- ・製作ヤード内の粉じん対策として、散水等により周辺環境に配慮。
- ・工事用看板等への間伐材の積極的な利用。



林道事業

■林道畑山仲木屋線1工区工事
【工事概要】林道開設390m 法面工、擁壁工他 工期:H24.8~H25.9

当該工区では、施工した植生が、鹿の食害と見られる草本類の枯死障害が発生している。このため、野生動物の食害対策を実施し、緑化工法の緑化障害の防止と、緑化を推進することにより、林道と周辺の景観との調和を図った。

また、自然景観になじむ材料の有効利用、生物の生息環境、生態系へ配慮し、環境に配慮した工法を採用した。

【主な環境配慮】

- ・切土斜面の緑化工法は、緑化障害となっている鹿の食害防止対策として、野生動物忌避剤を配合した植生基材吹付工を採用した。
- ・切土斜面の法尻部及び掘削のための仮設防護柵は、間伐材を利用した丸太柵工を施工した。
- ・湧水等の影響がない区間の路側擁壁は、現地発生土砂を有効活用できる補強土壁工を採用した。
- ・濁水の流出防止のため、路面排水口にカゴ枠を設置。



5 平成26年度以降完成予定の対象工事一覧 (現在施工中)

次の工事は、工事完了が平成26年度以降となっております。

事業	検討年度	工事名	事業	検討年度	工事名
道路	H23	国道439号活力創出基盤整備交付金木屋ヶ内バイパス第2上部工工事	河川	H23	奥田川広域河川改修工事
	H24	県道足摺岬公園線社会資本整備総合交付金松尾トンネル工事(大浜工区)		H24	和食ダム本体建設工事
	H25	国道439号防災・安全交付金新大平橋上部工工事	漁港	H24	野根漁港地域水産物供給基盤工事
	H25	国道195号社会資本整備総合交付金布師田大橋上部工工事	ほ場	H25	四万十窪川地区中山間地域総合整備金上野工区ほ場整備工事